

安平町ゼロカーボンシティ推進協議会（第1回） 議事録

会議名	安平町ゼロカーボンシティ推進協議会（第1回）
日時	令和6年1月23日（10:00～11:17）
出席者 （敬称略）	<p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 安平町 町長 及川 秀一郎</li> <li>• 安平町 副町長 田中 一省</li> <li>• 安平町商工会 会長 小林 正道</li> <li>• 安平町誘致企業会 会長 島田 裕之</li> <li>• 安平地区自治会連合会 会長 佐々木 弘</li> <li>• 追分地区町内会連合会 会長 真保 立至</li> <li>• 石川 英俊</li> <li>• 且見 暁</li> </ul> <p>【アドバイザー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 北海道地方環境事務所地域脱炭素創生室 企画係長 桂 愛子（代理参加・WEB）</li> <li>• 北海道銀行 安平エリア統括早来支店長 山内 淳</li> <li>• 北海道ガス株式会社経営企画部経営企画グループ 課長 宮澤 智裕（WEB）</li> <li>• 北海道電力株式会社 道央南統括支社長 南山 和彦</li> <li>• 北海道電力ネットワーク株式会社 道央南統括支社長 松井 利顕</li> </ul> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 安平町 税務住民課 参事 佐々木 智紀</li> <li>• 安平町 税務住民課 課長補佐 畠山 津与志</li> <li>• 安平町 政策推進課 課長 渡邊 匡人</li> <li>• エイコーエナジオ株式会社 事業アドバイザー 高島 誠太郎</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• エイコーエナジオ株式会社 事業アドバイザー 中尾 敏夫</li> <li>• 株式会社 DG ネットワーク 事業アドバイザー 北野 史人</li> </ul>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 安平町ゼロカーボンシティ推進協議会名簿</li> <li>• 安平町ゼロカーボンシティ推進協議会設置要綱</li> <li>• 安平町ゼロカーボンシティ推進協議会説明資料（第1回）</li> </ul>

### 1. 開会

安平町ゼロカーボンシティ推進協議会設置要綱第6条第1項の規定に基づき、及川町長が議長となった。

及川町長から挨拶が行われ、また設置要綱に第6条第2項の規定に基づいて本会が適正に開催されたことが説明された。

### 2. 委嘱状交付

及川町長から委員並びにアドバイザーに対して委嘱状の交付が行われた。

### 3. 事務局紹介

事務局から事務局員の紹介が行われた。

### 4. 安平町ゼロカーボンシティ宣言

及川町長が安平町ゼロカーボンシティ宣言を行った。

### 5. 町長挨拶

及川町長から挨拶が行われた。

### 6. 説明

事務局より、「安平町ゼロカーボンシティ推進協議会説明資料（第1回）」

資料に基づいて説明が行われ、以下の質疑応答が行われた。

【意見交換・質疑応答】

- 「1.安平町ゼロカーボンシティ推進協議会について」の部分で、何がどのようなになったらゼロカーボンシティの実現と言えるか、指標はあるのか？（委員）
  - 現状の二酸化炭素の排出量に対し、再生可能エネルギーによってこれを置き換えてバランスをゼロにしていくことを目標としている。（事務局）
- 「3.ゼロカーボンに向けた今後の予定について」の部分で、宣言文は本日 11 時からホームページで公表する。また、あびら環境フォーラムは北海道大学の山中先生に講演を依頼する予定である。山中先生は北海道のゼロカーボン推進協議会の行動部会の座長もやっておられる方で、そのような先生に支援をいただけることは大変心強く思っている。また山中先生と大学生、大学院生も含めて安平町に来てさまざまな活動をしていただけるよう、学長とも話をさせていただいた。（議長）
- 安平町のゼロカーボンに向けた取り組みと、SDGs はどのように関連するのか？（委員）
  - SDGs の目標 13 に「気候変動に具体的な対策を」というものがあり、ゼロカーボンに向けた取り組みはまさにこの目標を達成するための取り組みと言える。
  - 安平町としては、第 2 次総合計画後期計画の中で SDGs に関する位置付けをしている。またエネルギーだけではなくゴミの減量化などについても協議会の中で情報共有をして進めていければと思っている。（議長）
- 電気の世界では発電と需要という 2 つの視点がある。発電については、再生可能エネルギーのような二酸化炭素を出さないような電源を作っていくことでゼロカーボンに寄与する。一方需要については電化が必要で、化石燃料を使っている需要を如何に電化するのが重要となってくる

る。我々の生活スタイルが 2050 年にどのように変わっていくか、という点についてこの協議会の中で具体的に検討していただければ良いと思う。まさに 2025 年以降の予定に書かれていることを可能であれば前倒しして議論を進めることができれば、より良い方向に向かうのではないかと考えており、そのような期待の中で今日の議論を聞かせていただいた。(アドバイザー)

➤ 2025 年以降の予定になっているものについても、事業の実施としては 2025 年度以降にならざるを得ないが、検討は協議会の中ですぐにやっていく必要があると考えている。例えば、公用車についても EV 中心に更新していこうという方針を出している。また、移住住宅の設備更新を今後行うが、それをオール電化と PV と蓄電池と EV を盛り込む形で行い、移住を検討される方や町民の方に体験して、知っていただけるような形で進めていくことも検討している。

(議長)

- 資料の中でさまざまなキーワードが出てきたが、それに合わせて北海道電力の部署ごとにアドバイスできる内容が異なるので、臨機応変に対応していきたい。なお、北海道電力と北海道電力ネットワークは別会社であり、一応法律上の行為規制がある。そのことが協議会に影響することはないと考えられるが、念の為ご理解いただきたい。(アドバイザー)

➤ テーマによって担当の部署が異なることはあるかと思うので、今後ご本人ではなくて代理で参加いただくことも想定している。(議長)

- 環境省の事業を活用いただくという想定を聞かせていただいたが、環境省に限らず他に活用可能なメニューがあるかという点については、随時環境事務所に相談いただきたい。(アドバイザー)

## 7. その他

特になし。

8. 次回協議会について

事務局より、3月26日(火)の10時から次回の協議会を開催予定であることについて説明があった。

9. 閉会